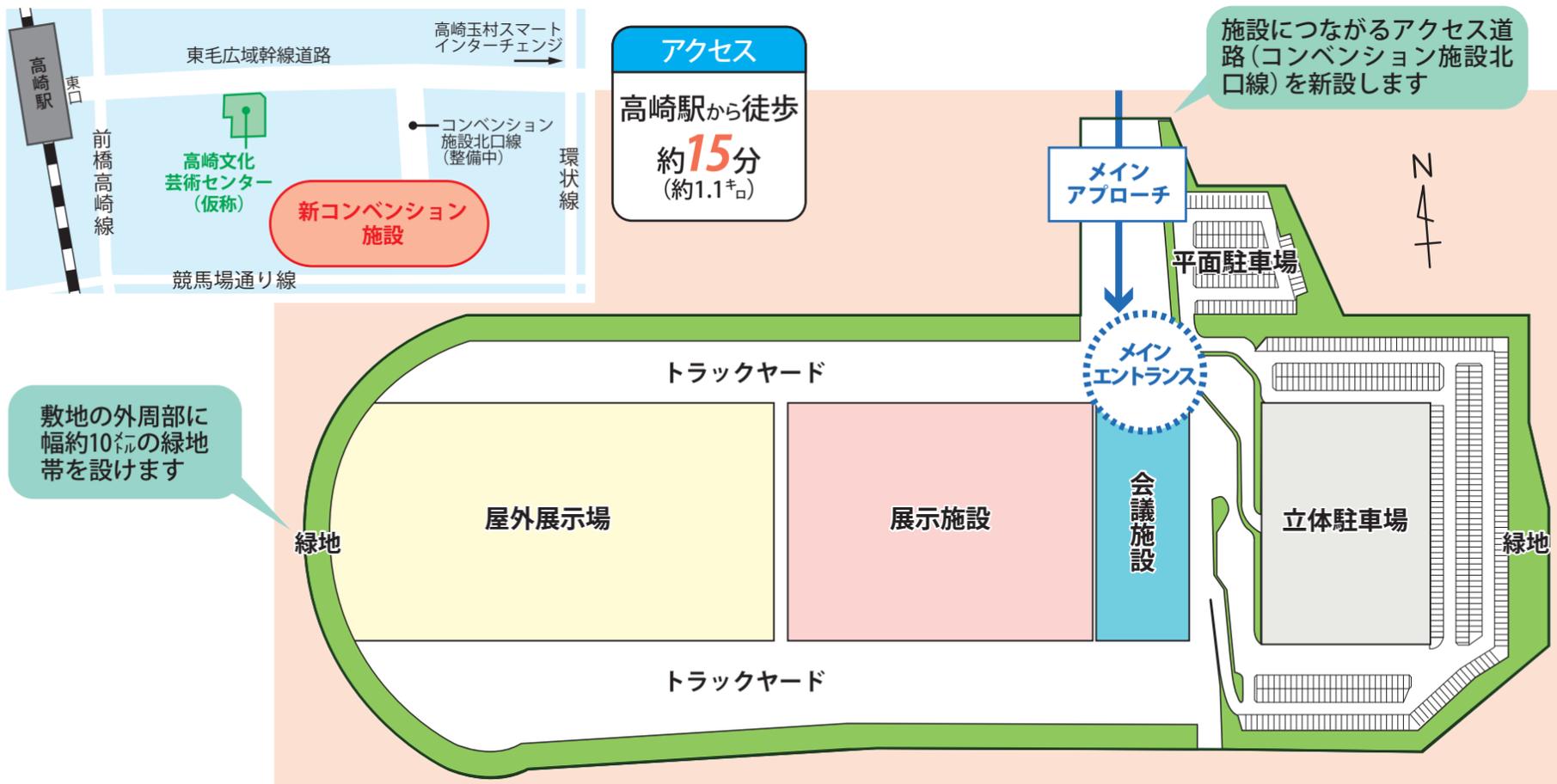


施設の概要と機能



展示会



北関東最大の屋内展示場では、最大で約1万平方メートル規模の展示会が開催できます。また2万平方メートルを超える屋外展示場も併設しています。

学会・国際会議



最大で5千人規模の学会や国際会議が開催できます。会議室は分割利用が可能であるため、さまざまなニーズに柔軟に対応できます。

コンサート・ライブ



最大で1万人規模のコンサート・ライブが開催できます。屋内展示場は音楽イベントの開催に適した天井高を確保しています。

各種イベントなど



一般消費者向けの即売会や資格試験、就職相談会などの会場として利用できます。また家族で楽しめるイベントも開催できます。

コンベンション開催への期待

業界発展のきっかけに

コンベンションの開催には多くの事業者が関わります。開催への期待について、県ディスプレイ業協同組合の野村理事長にお聞きしました。



野村城弘さん

ディスプレイ業は、コンベンション会場の音響設備や装飾などを手掛け、会場全体を盛り上げる雰囲気づくりをする業種です。

新しいコンベンション施設の完成により、業界全体として仕事の機会が増えることを期待しています。ま

群馬で学術大会を

コンベンション施設について、主催者の立場から群馬大学医学部の土橋教授にお聞きしました。



土橋邦生さん

「私は呼吸器の病気のうち、主にぜんそくや花粉症などアレルギー性の疾患を専門にしています。また今月東京で開催する日本アレルギー学会学術大会では会長を務めます。今回の大会は県内で開催したいと考えていましたが、約5千人が参加

たコンベンションの仕事をする中で、各社に競争意識が働き、組合全体の技術の向上にもつながると考えています。

コンベンションを手掛けることは、自分たちの技術を対外的にアピールできる良い機会になります。『今回のイベントが良かったので、また群馬で開催したい』という声が増えて継続的にコンベンションが開催されるようになれば、業界や地域にも経済効果が広がります。

現在、組合として県次世代産業振興戦略会議のコンベンション関連産業部会に参加しています。部会には異業種の人もたくさん参加しているので、今後はこのような人たちと交流を図りながら、互いに連携してコンベンションの開催に向けて力を尽くしていきたいです」

できる会議施設や周辺の宿泊施設などが県内で見つかりませんでした。今までに開催した3千人規模の大会でも、会場が分散して往復に時間がかかるなど、不便な点もあつたと聞いています。新しい施設は駅から近いので、徒歩でも行けて便利です。国内ではたくさんさんの学会が開催されていて、本学の先生が会長を務めるものもあります。新しい施設が完成すると、県内でも大規模な学会を開催しやすくなると思います。

今回の大会では、全国から集まる参加者に群馬らしさを感じてもらうため、八木節の披露や焼きまんじゅうの屋台などを用意しています。これらの催しも、県内で開催することができたら、より群馬の良さを感じてもらえるのではないかと思います」